

沼津市

明治史料館通信

1993. 7. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 9 No. 2 通巻第34号



御成橋に残る空襲の弾痕



震洋特攻基地跡の穴(多比)



海軍技術研究所の燃料庫



高射砲陣地の掩体(中沢田)

沼津の
戦争遺跡

ぬまづ近代史点描 ⑳

沼津の戦争遺跡

太平洋戦争下、沼津市とその周辺には多くの軍需工場や軍関係施設が所在した。そのため米軍による空襲の目標となった。一方、戦争末期日本軍は本土決戦に備え膨大な兵力を太平洋沿岸に配置したが、沼津周辺もそのひとつであった。

ここでは、現在も沼津市内に残る戦争に関わる遺跡について簡単に紹介してみよう。

① 震洋特攻基地跡

駿河湾が奥深く食い込んだ内浦湾に臨み、重須から江浦にかけて岩穴がところどころに残っている。これらは、爆弾を搭載した船もろとも敵艦に体当りをするという、震洋（モーターボート）、海竜（潜水艦）などの特攻基地だった。

② 海軍技術研究所の配水槽

日米開戦前の昭和十六年（一九四一）十一月、沼津市郊外の下香貫に海軍技術研究所音響研究部が開設された。現在の沼津市立第三中学校とその近辺が敷地であっ

た。ここでは水中聴音機・潜水艦探知機などの研究・開発が行われた。

三中の北東にある小山にはこの研究所の施設としてつくられた配水槽が残る。

③ 海軍技術研究所の燃料庫

三中から東へ少し離れた場所に、技研の燃料庫として使われたレンガ造りの倉庫が残る。

④ 高射砲部隊の掩体

中沢田の部落から愛鷹山を少し登った場所、JR変電所近くの畑の一角にコンクリート製の掩体がある。ここに駐屯した高射砲部隊が築造したものである。

⑤ 囚人堀

沼津海軍工廠は昭和十八年（一九四三）に開設されたが、水田地帯の真ん中だったため敷地の周囲に排水溝をめぐらした。服役中の囚人その工事にあたらせたためこの溝は囚人堀と通称されるようになった。明電舎と藤倉電線の間を流れる新中川はすなわち囚人堀

である。

⑥ 御成橋の爆撃痕

昭和二十年（一九四五）四月十一日、B 29 一機が御成橋の西北端に爆弾を投下した。この時の傷跡が、西から三番目の北側橋柱のく



海軍技術研究所の配水槽

ほみ、同じく七番目の歪みとして残っている。

※遺跡の所在確認については、足立実・高田篤三・青木栄実各氏の協力を得た。記して感謝する次第である。



沼津海軍工廠の排水溝＝囚人堀

シリーズ

沼津兵学校とその人材

31

明治政府における沼津兵学校出身者

明治六年の政変から十一年（一八七八）に暗殺されるまで大久保

利通が明治政府の中樞を掌握し

た。この大久保政権は、内務・大蔵・

工部三省を中心に上からの強力な

文明開化・富国強兵政策を推進し

たが、それを支えた官僚群には旧

幕臣の下級実務官僚が多く含み込

まれていたことが指摘されてい

る。勅任官・奏任官の場合、鹿児

島・山口・高知・長崎の出身者（い

ゆる藩閥）が全体の四十%を占め

ているのに対し、判任官の場合

は東京・静岡出身者が三十四%を占

めるのである。実務に長じ、欧米

の先進技術や文化を受容していた

旧幕臣を政権の裾野に広く取り入

れていたからこそ、大久保政権は

近代化政策を推進しえたと評価さ

れる（田中彰『大久保政権論』、近

代天皇制の成立』一九八七年）。

それは大久保政権以後について

も同様だったであろう。下の表は

明治八年（一八七五）、十四年（一八

八一）の官員録から作成した静岡

県（浜松県）出身者、および沼津

兵学校出身者の各省庁別の人数で

ある。東京に属籍がある者も含め

ないと旧幕臣全体をカバーしたこ

とにはならないが、ここでは駿河・

遠江へ移住した経験をもち後に上

京したというユーターン組とも言

うべき旧幕臣のみを対象とした。

県出身者の比率では、太政官・

大蔵省・海軍省・工部省・内務省・

農商務省・開拓使などでその占め

る割合が高い。

兵学校出身者は、八年と十四年

の間で元職員が減っているのに対

し元生徒のほうは増加している。

これは元生徒のほうで学業を終え

官僚として職に就いた経過を示し

ているのであろう。陸海軍がやは

り多いが他省庁にも分散している

点も見逃せず、沼津兵学校ならで

わの性格を反映している。

明治政府における沼津兵学校出身者

	明治 8 年				明治 14 年			
	兵学校職員	兵学校生徒	静岡・浜松県合計	官員総計	兵学校職員	兵学校生徒	静岡県合計	官員総計
太政官	5	1	47	395	3	2	40	419
元老院	0	0	4	105	0	0	4	98
外務省	2	1	18	57	2	1	13	206
内務省	5	11	189	972	3	5	44	484
大蔵省	2	6	246	1,273	1	3	150	1,354
陸軍省	19	25	204	2,991	13	43	204	2,845
海軍省	6	5	116	706	6	11	130	1,113
文部省	1	2	12	237	3	3	21	261
教部省	0	0	6	108	—	—	—	—
工部省	0	1	91	823	0	5	118	1,008
司法省	0	0	53	1,077	2	1	63	2,113
宮内省	1	0	22	400	1	1	18	464
開拓使	1	4	56	499	0	3	33	434
警視庁	0	0	4	765	0	0	19	789
農商務省	—	—	—	—	1	6	93	693
府 県	0	2	318	4,946	0	6	245	6,399
合 計	42	58	1,386	15,354	35	90	1,195	18,680

※兵学校職員には、附属小学校職員も含む。

※兵学校生徒には、附属小学校生徒も含む。

お知らせ欄

◎企画展「沼津市のなりたち―自治と行政の発達史―」の開催について

今年には沼津市の市制施行七十周年にあたります。そこで今回の企画展では、地方自治の歴史の変遷に焦点をあててみました。

江戸時代の村のしくみ、明治時代の地方制度の移り変わりなど、市制施行以前にまでさかのぼり、自治や行政に関する様々な史料を展示しています。

期間…7月1日(木)～9月29日(水)
会場…4階展示室

暁朝から煙火を挙げて 市制施行祝賀會

新沼津市民の大歡喜

新沼津市は、明治二十一年七月一日、市制を施行し、新沼津市民の大歡喜を博した。この日を記念して、市制施行五十周年を前に、市制施行の歴史を振り返り、市制施行の意義を語り、新沼津市の発展を期す。市制施行の歴史を振り返り、市制施行の意義を語り、新沼津市の発展を期す。

沼津市の市制施行を報じる新聞記事

◎歴史講座の受講生募集

企画展に対応したテーマで歴史講座も行います。日程・講師・テーマは表の通りです。問い合わせと申し込みは当館まで電話でどうぞ。

時間…午後2時～4時
場所…明治史料館講座室
定員…一〇〇名
受講…無料

日程	講師	内容
9月5日(日)	静岡県埋蔵文化財調査研究所主任調査研究員 橋本敬之氏	「江戸時代の村の統制と自治」
9月12日(日)	沼津市明治史料館学芸員 樋口雄彦	「明治前期の地方制度と沼津地域」
9月19日(日)	沼津市史編集専門委員 湯川郁子氏	「明治の村の自治と行政」
9月26日(日)	横浜国立大学助教授 金澤史男氏	「大正・昭和期の自治体の役割」

◎「平和を考える親子戦争史跡めぐり」の参加者募集

昭和二十年(一九四五)の敗戦から半世紀が過ぎようとしている

今日、あの悲惨な戦争の記憶をいかに子どもたちに伝えていくかが課題となっています。

そこで今回の史跡めぐりでは、沼津市内に残る昭和の戦争に関係する遺跡・記念碑などを見学したいと思います。地域の歴史の学習であると同時に、今日の平和の意義を考えていただく機会にもなるでしょう。

日時…8月5日(木)、午前9時から午後4時まで。雨天の場合

8月13日(金)に延期。

対象…小中学生とその父母

定員…十三組二十六名

費用…無料、但し弁当持参のこと。

コース(予定)…明治史料館集合
↓光長寺「一太郎やあい」
↓拓南訓練所跡↓高射砲部隊の掩体↓東椎路戦災記念碑↓明治史料館で昼食↓

海軍技術研究所跡↓御成橋の空襲被弾跡↓沼津海軍工廠工員養成所跡↓沢田部

落移転跡↓明治史料館解散

申し込み…電話で当館まで。マイ

クロバスの定員があるため先着順と致します。

◎古文書解読入門講座の受講生を募集します

古文書にはじめて接する初心者を対象とした入門講座です。申し込みは当館までお電話で。

日程…10月16日、23日、30日、11月6日、13日、20日の各土曜日(6回)。ただし講師の都合で1回が11月27日に振り替えられる可能性があります。

時間…午後2時～4時
場所…明治史料館講座室
講師…友野博氏(沼津市文化財保護審議会会長)

費用…無料。古文書辞典をお持ちでない方は斡旋致します。

『木瀬川大古田家・中石田秋元家文書目録』 B5判 一三二頁 頒価一七〇〇円 沼津市内の旧家に伝来した近世・近代文書の目録。

◎沼津市明治史料館史料目録14の刊行について

沼津市明治史料館通信 第34号

編集 沼津市明治史料館
発行 沼津市西熊堂372-1

〒410 沼津市西熊堂372-1
☎〇五五九(23)三三三五